



シリーズ

# 芸備線は今……

市民生活課市民生活係 ☎0824-731154

Vol.4



7月の豪雨災害の影響で、多くの鉄道路線が不通となりましたが、復旧作業が進み、芸備線の新見～東城間が8月27日、東城～備後落合間が8月31日、備後庄原～三次間が10月4日に運行を再開しました。そして、備後落合～備後庄原間は12月20日に運行再開の見込みであると発表されています。(三次～狩留家間の運行再開は来年の秋と発表されています。)

不通となった芸備線の早期復旧に向けては、10月に、芸備線沿線4市(庄原市のほか、広島市、安芸高田市、三次市)の市長がJR西日本広島支社へ要望書を提出し、支社長と意見交換を行うなどしてきました。

7月の豪雨災害から5カ月。この間、市民の移動手段として、鉄道の重要な役割を改めて認識し、芸備線について思いをはせた人もいます。その中の1人、庄原市芸備線の存続に関する協議会委員で、西城紫水高校PTA副会長の中村尚朋さんに話を聞きました。



ながむら よしとも  
中村尚朋さん(実留町)

「不通となった後、代行バスが運行されるまでの2週間余り、高校生は保護者の送迎や路線バスで通学していました。その間、時間どおりに運行されるという面で、鉄道の重要性を改めて感じました。また、路線バス運賃の保護者負担も大きく、高等学校の存続のためにも通学手段として鉄道が必要であると感じました。不通期間が長くなるにつれ、草だらけの線路を見ると、本当に復旧できるのかと心配にもなりました。しかし、12月20日に運転が再開されるとの報道を受け、大変う

れしく、感謝しています。加えて、早期の復旧、代行バスの運行についてもJRに対して改めて感謝するとともに、雪が降る時期の前に時間どおりに運行される鉄道の再開は大変うれしく思っています。芸備線は、特に高校生にとっては、なくてはならない通学手段です。」

このとおり、芸備線は、通学をはじめとした市民の移動手段として重要な役割を担っています。市は、芸備線への思いを利用者と共有し、引き続き、芸備線の利活用促進の取り組みを行っていきます。

